

## N. A. 英語英文学科・4 年次

### I. 留学レポート

#### ① 協定留学を目指した理由

入学当初から留学したいという思いがありました。現地でしか体験できないこともあるので、留学に行き、より英語力を伸ばしたいと思っていました。初めは、なかなか TOEIC 等の点が伸びず、留学実現は難しいと感じていました。しかし、どこかであきらめられない気持ちもあり、留学に関する掲示板を見たりしていると、国際課の方が声をかけてくださり、留学についての話をしてくださいました。そして、留学説明会等にも毎回参加し、留学に行かれた方々の話を聞くうちに、より留学に行きたいという気持ちが強くなりました。

#### ② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

普段の英語の授業に休まず参加し、課題も必ず提出していました。国際課の英語講座等にも参加しました。また、IELTS の本を 1 冊買いました。最後に受けた IELTS でやっと基準点が取れたので、出願することができました。最後まであきらめずに続けることが大切だと思いました。

#### ③ 留学決定から出発までの準備期間

授業やテストがある中で、現地の大学の申し込み用紙を提出したり、あっという間に時間が過ぎていきました。ビザ申請は自分で行いましたが、少し難しかったです。まず必要な資料をそろえてから行いましたが、銀行で証明書を発行してもらったりするのも時間がかかり、ビザ申請が承認されるのが年明けになってしまいました。分からないことがあればすぐに確認し、早め早めに行動しておけば良かったと思いました。また、語学学習も出発前までにもっと勉強しておけば良かったと思いました。

#### ④ 現地到着後

現地の空港から大学まで、同志社大学の団体と一緒に ELP のスタッフが車で送迎してくださいました。大学の駐車場に着くと、簡単な説明があり、オリエンテーションの日程表等の資料をもらいました。夜遅くだったので、すぐに解散し、各自のホームステイ先へ車で送ってくださいました。別日のオリエンテーションでは説明会、キャンパスツアー、レベル別クラスを決めるプレイスメントテスト等がありました。

#### ⑤ 語学研修期間

##### ◆ 語学研修先の施設・環境について

大学内の教室で授業を受けていました。クラスによって、時間割も異なっていました。1～10 までのレベル別のクラスで、1 クラス 10 人程度でした。日本人、韓国人、中国人の学

生が多かったですが、メキシコ人、サウジアラビア人等、色々な国から来ている学生がいました。

#### ◆ 授業内容、課題、試験

授業は学生同士で話し合ったり、プレゼンテーションをしたり、グループワークが多かったです。リーディング、スピーキング、ライティング、リスニング、文法のクラスがありました。課題も多く、毎日宿題をしていました。セメスターの7週目に試験がありました。コースリンクというマナビーのようなオンラインシステムがあり、オンライン上で課題を提出していました。このシステムは大学の正規授業でも使います。語学研修中に使い慣れていたもので、とても助かりました。

#### ⑥ 正規科目履修期間

##### ◆ 大学の施設・環境について

履修する科目にもよりますが、私が取っていた科目は100人以上の大人数のクラスで、とても大きな教室で授業を受けていました。図書館にはライティングサービスというものがあり、ネイティブの学生やスタッフが、エッセイやレポートを書くときにサポートしてくれます。スペルミスや文法の間違い、不自然な表現の文に自分で気づけないこともありますが、このライティングサービスを利用することで、少しでも改善できました。また、授業ごとにTAがいるので、教授と話しにくい場合は、TAに質問することも出来ました。

##### ◆ 履修科目

留学前に調べていた科目がなかったり、定員オーバーで履修できなかったりしたので、候補を多く決めていた方が良かったです。登録はオンライン上で行いました。

##### • The Language of Media

最初の授業で教授が、この授業はカオスですとおっしゃったとおり、日本では受けたことがない、ユニークな授業でした。ロビー活動のロールプレイをしたり、絵やポスターを見て、それが何を意味しているのかを考えたり、学生自身の意見や考えを重視した授業でした。

##### • Sociology

大人数のクラスで、パワーポイントを使った講義形式の授業でした。チュートリアルというレポートが5つありました。TAが複数人おり、オフィスアワーに質問しに行くことができ、チュートリアルもTAが採点していました。

##### • Reading the Contemporary World

リーディングという名前ですが、実際はライティングの授業みたいでした。小説、ポッドキャスト、漫画、映画についての4つのレポートがありました。1つ目のレポートは250字程度でしたが、最後のレポートは750字程度で、徐々に字数が増えていきました。スペル

ミスや文法の間違い等、レポートの採点は厳しかったです。

#### • Introduction to Linguistic

音声学、第二言語習得、社会言語学など、言語学について学ぶ、パワーポイントを使った講義形式の授業でした。毎週オンライン上でミニクイズがあり、授業内容を復習することが出来ました。課題もチャプターごとに4つありました。教授は留学生に対して理解があり、とても優しい方でした。

#### ◆ 授業、レポート、定期試験

授業では、教授の話を聞いたり、メモを取ったりすることで精一杯で、難しかったです。現地の学生は授業中に質問したり、堂々と自分の意見を発表したりしていました。分からないことが多々ありましたが、授業の後やオフィスアワーに、積極的に教授やTAに質問しに行きました。定期的にレポート等の課題も出ました。中間テストと期末テストがありましたが、配点の比重は科目によって違いました。教科書はとても高く、中古本を買ったり、使い終わった教科書を大学の本屋さんに売っている学生もいました。

#### ⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

ELP の時はイベントやフェスティバルのボランティア活動に参加しました。正規授業が始まってからは、授業のことだけで精一杯で、私はクラブやボランティアには参加しませんでした。大学には様々なイベントやクラブ、ボランティア活動の機会がありました。

#### ⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

私は語学研修中はホームステイで、正規授業が始まる時に次のホームステイへ変わりました。早めに申し込みをすると、正規授業が始まる9月から寮に移ることも可能でした。寮は現地の学生と交流出来る、バスに乗って通学しなくても良いといったメリットがありますが、食事などは各自で用意しなければならないといったデメリットがあると思います。一方、ホームステイはホストファミリーと食事が出来る、伝統行事を体験することが出来るといったメリットがあるので、私はホームステイにしました。それぞれにメリットとデメリットがあるので、自分に合った方を選びました。ホームステイ先では、一人部屋があり、トイレ・バスルームは共用でした。通学はバスで、約20～30分ほどかかりました。食事は、朝食と昼食は各自で用意し、夕食はホストファミリーが作ってくださいました。時々お米を出してくださることもありました。感謝祭の時は、ホストファミリーの友人も招き、皆で伝統的な料理を食べました。ホームステイ代は月にCA\$850で、現金でホストファミリーに直接渡していました。

#### ⑨ 長期休暇の過ごし方

語学研修中はセメスターと次のセメスターの間に、1週間ほどの休みがあったので、旅行し

たり、友達と遊んだりしてホームステイ先で過ごすこともありました。語学研修が終わり、正規授業が始まるまでにも 2 週間ほど休みがあったので、旅行しました。早め早めに計画を立てておいた方が良いと思います。

#### ⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私は現地でしか出来ないことを経験し、英語学習に集中したいと思っていたので、留学期間中には就職活動はしていませんでした。スーツを持参して、ボストンキャリアフォーラムに参加している学生もいました。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ELP の時（語学研修中）、色々な国籍のクラスメートと一緒にご飯を食べに行ったことが、とても楽しかったです。日本食レストランへ行ったときは、メニューを英語で説明してあげたり、メキシコ料理のレストランへ行ったときは、メキシコ人の友達にメニューを英語で翻訳してもらったりしました。休み時間に、それぞれの国の文化や言語について話し合い、今まで知らなかったことも学ぶことが出来ました。また、色々なイベントやカナダの伝統的な行事にも参加出来たことなど、楽しかったことを挙げるときりがありませんが、色々な国籍の人々と異文化交流出来たことが、一番思い出に残っています。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

積極的に話すことを目標にしていたのですが、初めはなかなか思うように出来ませんでした。1 つ目のホームステイ先では、ホストファミリーと会う機会も少なく、何を話したら良いのか分からず、コミュニケーションを取ることが難しかったです。また、正規授業では難易度も上がり、大変でした。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

サウジアラビア人の友達がラマダンという断食をしていました。カナダは日照時間が長いので大変そうでした。レギンスのようなタイツだけをはいている人や、寒い日でも T シャツを着ている人がいて驚きました。洗濯は週に 1 回、シャワーのみ等はよく知られたことなので、それほど驚くことはなかったです。しかし、日本にいる時は、自分が日本人であることを意識することはないですが、カナダで生活していると、日本食が恋しくなったり、湯船につかりたいと思ったり、想像以上に日本の文化や習慣が自分にすり込まれているということに気づき、自分自身に少し驚きました。

### Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

#### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

ELP の時は、日本人の学生が多く、日本語をよく耳にすることが多かった点は少し残念でした。しかし、ELP は留学生のためのサポートもしっかりしており、楽しいイベントもたくさんありました。バディプログラムという、現地の学生と交流出来るプログラムもありました。大学での正規授業が始まって、リンクパートナーというバディプログラムと同じようなプログラムもありました。留学生向けのイベントなどもあり、色々な国籍の学生と交流することが可能でした。教授や TA も優しい方々だったので、気軽に質問したりすることが出来ました。図書館にはライティングサービスもあるので、留学生に対するサポートはしっかりしていると思います。

#### ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ELP の授業ではパソコンをよく使いました。課題はオンライン上で提出することが多かったため、パソコンは必需品です。また大学の正規授業でも、パソコンでメモを取っている学生をよく見かけました。プリントが配られたことはなく、課題やクイズ、パワーポイント等、オンライン上で提示されることが多いので、持ち運びが出来るパソコンが必要だと思いません。機種は自分が使い慣れているものを選びました。

#### ③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力の向上に関しては、リーディング、ライティングもですが、特にリスニングとスピーキングが上達したと思います。留学前と後で変わったことは、積極的に自分から行動し、問題解決が出来るようになったことです。持って行った VISA カードで現金がおろせず、急遽現地で銀行口座を開設することになったり、ホームステイ先を変えたり、色々な問題がありましたが、ELP のスタッフの方々に質問、相談したりして、サポートもしていただきながら、解決することが出来ました。正規授業でも、分からないことや難しいことばかりでしたが、積極的に教授や TA に質問することでなんとか乗りきり、全ての履修科目の単位を取ることが出来ました。今までならあきらめてしまっていたことでも、周りの方の助けを借りながら、最後までやり遂げる力がついたと思います。また、自分自身の視野も広がったと思います。

#### ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

様々な国籍の人々と異文化交流をしたり、現地でしか体験できないことがあると思います。また、英語学習だけでなく、人間的にも成長出来ると思います。少しでも留学したいという気持ちがあれば、最後まであきらめずに挑戦してほしいと思います。留学中には大変なこともあります。後から考えると良い経験になったなと思えると思います。留学は一生の思い

出になると思うので、楽しんでください！

#### **IV. 将来の目標**

##### **① 今後の進路、将来の目標・夢**

卒業後は免許取得のために科目等履修生になります。留学中に身につけた英語力をさらに向上させ、その英語力を活かせる仕事に就きたいと思っています。

V. 写真



バス停の近くで撮った写真です。メープルの紅葉がとてもきれいでした。



ELP の事務所がある Johnston Hall の前でイベントがあり、皆でアイスを食べました。



キャンパス内に古いキャノンがあり、様々なデザインに学生が塗り変えています。



Toronto の Nathan Phillips Square の写真です。虫みたいになってしまいましたが、メープルリーフの前にいるのが私です。Toronto へは Greyhound というバスで、1時間半ほど

で行くことができます。



旅行先の Banff で撮った写真です。エメラルドグリーンの Lake Louise を見たかったのですが、凍っていて真っ白でした。湖の上を歩くことができました。

## Y. N. 英語英文学科・3 年次

### I. 留学レポート

#### ① 協定留学を目指した理由

高校生の頃から漠然と留学というものに憧れを抱いていました。大学に入学して、英語に触れる機会、またネイティブの先生方と話す機会が増え、英語を話せることで広がる可能性を感じました。そして、もっと様々な国の人と話をしたり友達になったりすることで違う文化に触れてみたいと思い、協定留学を目指しました。最初は、具体的な理由よりも留学に対する憧れと、留学した先輩方のお話を聞いて、自分もこんな風になりたいと思ったのがきっかけです。

#### ② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

留学を目指してからは、まず出願時に満たさなければいけない条件を把握し、それに向けての勉強を始めました。私の場合は IELTS の受験が必要だったので、その対策を中心に行いました。具体的には、TOEFL CAMP に参加して問題を解くコツを学んだり、IELTS 専用の単語帳を購入したりし、電車の中や空き時間などにひたすら単語を覚えていました。また IELTS にはスピーキングのテストがあるので、国際課が行っている English Chat Room に参加して英語を話す機会を増やし、家では、独り言のようにトピックスについて話す練習をしました。他にも、過去に協定留学をされた先輩方の体験レポートを読み、報告会に積極的に参加することで、勉強に対するモチベーションを下げないようにしました。

#### ③ 留学決定から出発までの準備期間

出発までにやらなければならないことは山ほどありました。飛行機の予約やクレジットカードの作成、またビザの申請はすべて自分で行ったのですが、インターネットでやり方を調べたり、必要書類を準備したりするのに時間がかかる場合があるので、余裕をもって行ったほうが良いと思います。他にも提出しなければならない書類がたくさんあるので、しっかりと必要なものを確認し、抜かりなく準備を進める必要があると思います。分からないことは日本にあるゲルフ大学の担当のエージェントに質問をしました。メールで丁寧に教えて下さりました。ゲルフ大学に留学するのは同志社女子大学からは私たちが初めてだったので、不安でいっぱいでしたが、その分出発まで手厚くサポートして頂いて、安心できました。英語の勉強に関しては、留学してからリスニングが難しいとよく聞いていたので、NHK のワールドニュースをみたり、洋楽を聴いたりしてリスニング力を特に鍛えました。

#### ④ 現地到着後

トロントピアソン空港に到着すると、ゲルフ大学のスタッフの方が迎えに来てくれていて、

他の大学の留学生 20 名ほどと車に分かれて乗りゲルフに向かいました。空港からゲルフまでは 1 時間ほどでした。最初の 1 週間はオリエンテーションで大学の中を案内してもらいました。友達を作るチャンスがいっぱいありました！この期間中に語学学校のクラス分けのテストもありました。他にもホストファミリーと留学生のためのオリエンテーションがあり、それぞれのルールを再確認できました。諸手続きに関しては、ゲルフ大学内にある留学生のサポートをしてくれる事務室ですべて行いました。

## ⑤ 語学研修期間

### ◆ 語学研修先の施設・環境について

語学研修中もゲルフ大学の教室を使用していました。クラスごとに週何回か現地の学生とチャットをする時間が設けられていたり、バディーになって遊びに行ったりして、語学研修中でも現地の学生と触れ合う機会がたくさん用意されています。他にも、語学学校の学生用にアクティビティがあり、友達を作るチャンスがたくさんありました。大学内にはリスがいっぱいいて、寒い中でも立ち止まって見てしまうほどかわいかったです。

### ◆ 授業内容、課題、試験

授業はレベルとクラスで振り分けられ、約 10 人の少人数で行われました。授業は Speaking、Listening、Writing、Reading、Grammar の 5 教科で行われます。レベルによって授業内容は変わってくると思いますが、特に Speaking、Listening、Reading では授業のトピックに沿ったプレゼンテーションが多かったです。それに向けての準備に加え、毎週出される課題が多く、大変でした。Writing は一通りエッセイの書き方を詳しく勉強し、最終的には 1 つ、エッセイを仕上げます。私のクラスではペアエッセイが課題だったので、中国人の留学生とペアになりエッセイを書きました。意思の疎通が難しく、何度も何度も書き直して仕上げたのが大変でしたが、終わったときは達成感でいっぱいでした。Grammar の授業は文法を一から細かく教えて下さるので自分の弱点を見つけることが出来ました。それぞれの授業で課題が多く大変だった代わりに、試験は授業や課題に沿ったものだったのでまじめに頑張っていればそんなに難しくないと思います。

## ⑥ 正規科目履修期間

### ◆ 大学の施設・環境について

語学学校期間中に大学内の施設には慣れていたので、迷うことは無かったです。一気に周りが全員現地の学生になったときは雰囲気の違いに圧倒されました。授業中もとても積極的に質問をしていて日本の学生との違いを感じました。

### ◆ 履修科目

- Introduction to Linguistic

講義形式の授業で50分の授業が週3回ありました。同女で第二言語習得の授業を履修していて基礎知識があり、興味があったので履修しました。英語という言語がどのようなものなのか、また日本語も含めて、他の言語との相違点は何か、学ぶことが出来ました。先生はとても優しく、授業後はいつも質問に行っていました。分かりやすく教えて下さるし、頼れば、特別に授業で使用したスライドも送って下さりました。

#### • **Foodservice Management**

この授業は講義と少人数で行われるセミナーがそれぞれ週1回ずつありました。ホスピタリティーの業界に興味があり、履修しました。多くの留学生が履修していました。主にレストラン事業について学んだり、特別講師の方が講演して下さったりと深くまで学ぶことが出来たと思います。

#### • **Introduction to Performance**

4年次より、SP(Shakespeare Production)を履修しようと考えていて、何か学べることがあると思い履修しました。この授業も50分の講義が週3回ありましたが、毎週1回はアクティビティでグループになり、教室の外に出て一緒に課題をこなすものがありました。演技自体を学ぶのではなく、パフォーマンスとは何かを学ぶ授業で、全体で3回ほどトロントにお芝居をクラス全員で見に行きました（必須で感想の課題がありました）。普段の授業もディスカッションが多く大変でした。

#### ◆ **授業、レポート、定期試験**

私が履修した3つの授業でレポートの提出はあまりありませんでしたが、授業に向けてのリーディング、また復習が大変でした。プリントなどは特に配布されなかったので、自分のメモとスライドを見直したり、授業のレコードを聴きなおしたりして、自分の理解が正しいのか確かめていました。定期試験はミッドタームとファイナルの2つがありました。普段の授業をしっかりと理解していれば、難しくないものが多く、予習と復習の大切さを感じました。

#### ⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

クラブ活動には参加できなかったのですが、ボランティア活動にはいくつか参加しました。インターネットで調べたり、ボランティア団体の事務所に足を運んでみたりして情報を集めました。ゲルフ市内で開催された Multicultural Festival の運営ボランティア、また、正規の授業が始まってからは大学の学生用にボランティアを募集していて、Food Bank でのボランティアなどに参加しました。日本よりもボランティアに対する高い意識を持っている人が多い印象でした。ボランティア活動をすることで、様々な人と触れ合えるし、英語力の向上にもつながるのでお勧めです。

### ⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

語学学校の期間中はホームステイ、正規授業が始まるタイミングで寮に移りました。ホームステイは事前に提出するアンケートでホストが決まるようです。学校まではバスで20分程度でした。私のホストマザーがベジタリアンだったこともあり、ヘルシーな食事をいつも出してくれました。時々お肉も料理してくれて、好みを聞いてくれ、買い物にも一緒に出掛けました。毎晩、サラダをホストマザーの横で作るのが私の日課で、会話をしながら一緒に料理するのがとても楽しかったです。寮に移ろうと思ったきっかけはもっと多くの現地の学生、また留学生の少ない新しい環境に挑戦してみたいと思ったからです。寮はタイプがいくつかあり、どこの寮に行きたいか、お酒は飲むか、部屋はよく片付けるか、また自分の性格などの質問に答え、申し込みます。私はキッチンがついている寮を選びました。部屋は一人部屋で、ベッド、クローゼット、たんす、机などが備え付けられていましたが、布団などは購入しました。学校までは歩いて10分ほどでした。毎週1回買い物に行き食料を買って作り置きをしたり、日本から送ってもらった物を食べたりしていました。寮内にはコンビニやシアタールーム、スタディールーム、ラウンジがあり、定期的にイベントが開催されました。

### ⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇中は国内外様々な場所に旅行に行きました。バス、飛行機、泊まる場所、すべて自分たちで計画し、時にはバスに乗り遅れたこともありましたが、いい経験になりました。モントリオール、ケベックではフランス移民の文化を肌で感じる事が出来、カナダにいながらヨーロッパにいる様な気分になりました。また、圧倒的にフランス語話者が多かったのですがほとんどの方が英語も話されていて、カナダの公用語が二か国語であることを改めて自分の目で見る事ができ、感銘を受けました。カナダの東海岸にあるプリンスエドワード島では、赤毛のアンの舞台となった美しい赤土の風景や、新鮮な海鮮を堪能しました。イエローナイフでは運よくオーロラを鑑賞でき、一生分の運を使ったと思います。ツアーに参加して、夜の10時ごろから鑑賞に向けて出発します。3泊すれば1回は鑑賞できるというイエローナイフで3日とも素晴らしいオーロラを鑑賞できたことは、一生の思い出です。国外旅行では、アメリカに留学している友達と待ち合わせをしてフロリダのディズニーワールドに行きました。またトロントからニューヨークまで週末にバスで旅行に行きました。Greyhound というバスで長距離の旅行をよくしていましたが、ニューヨークまでの約13時間はきつかったです。

### ⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

日本にいる学生と同じようなことは出来ないので、留学中に自らの課題をみつけ、それに対

してどう取り組んでいくのかを日々考えていました。留学中の学びは就職活動に絶対に繋がると信じ、様々なことに挑戦しました。またボストンで毎年開催されるキャリアフォーラムに参加しました。面接を何回か行うことで就職活動に向けて自分の課題や準備しなければならぬことが見えてきました。

## Ⅱ. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

どの瞬間を切り取っても楽しい思い出でいっぱいですが、ホームステイ、寮でのそれぞれの生活で、かけがえのない人達と巡り会い生活を共にしたことが一番の思い出です。ゲルフに到着した日、緊張でいっぱいだった私をホストマザーが暖かく迎えてくれた瞬間は忘れられません。帰国直前は本当の娘のように思っていると言って涙を流してくれました。寮生活では友達と食事に出かけたり、パーティーをして騒いだり、また一緒に勉強をしたりしました。思いっきり笑いあった日々がかけがえのない思い出です。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

ディスカッションの多い授業でネイティブの話し合いについていくのがとても大変でした。その中で、一度私の意見は完全に無視、また目も合わさずにディスカッションを進められ、授業後は私の方を見て笑って帰って行かれたことがありました。私の勘違いかもしれませんが、バカにされたように感じて、辛かったです。それからは、様々な席に座って、積極的に隣の人に話しかける中で自分が留学生だという事を気にせずに参加できる場所を見つけました。日本に興味を持ってくれる人もいれば、留学生に興味のない人もいる、日本では感じることでできないことを経験できたと思い、プラスに捉え、切り替えてその授業に臨みました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

全然知り合いでもない人同士で、服装や髪型、メイクを褒め合ったりしている場面に何度も遭遇して驚きました。また授業中は、他の人がまだ質問中でも積極的に手を挙げていたり、くしゃみをした人がいたら、授業中でも、テスト中でも“bless you”と言ったりしていて、日本にはない習慣だなと思いました。

## Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は留学生に対するサポートが手厚く、様々なイベントが開催され、友達をたくさん作る機会があったことや、困ったことがあってもすぐに相談できる方がいてくれたこと

だと思います。また大学内のカフェテリアが充実していて、いつでもおいしいものが食べられました^^

悪かった点はあまり思いつかないですが、強いていうなら日本人の語学学校生が多いことだと思います。他のクラスではほとんど日本人というのを聞きました。自分次第だと思いますが、英語を学びに行っている中で日本語を話してしまう、よく耳にってしまうというのは、あまりいい環境とは言えないと思います。ただ、他の大学の日本人留学生と関わることも大切で、その人の留学に対する思いや、勉強に対する姿勢に触発されることもあるので、バランスをとるのが大切だと思います。

## ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは日本から持っていきました。学校にもパソコンはありますが、自分の物があつた方が便利だと思います。ゲルフの一番寒い時期を経験せずに帰国しましたが、それでも4月頃まで日本人にとっては厳しい寒さが続きました。カイロを持って行ってよかったと思いました。現地の友達にあげたら驚いて、とても喜んでいました。他には日本ならではのお土産をいくつか持っていきました。扇子などを何本か持っていきましたが、友達の誕生日やお世話になった人にプレゼントしたらとても喜んでくれたので良かったです。

## ③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

特にリスニング力が向上したと思います。留学前聞き取れなかった英語のニュースや番組が聞き取れるようになったし、映画も字幕なしでほとんど理解できるようになりました。スピーキング力も自分ではあまり実感がないですが、留学前よりもどんどん単語が出てくるようになった気がします。寮に移ってしばらくしてからホストマザーに会ったら、最初の頃よりもだいぶ向上していると言ってくれました。

## ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学生活には楽しいことはもちろん、辛いこともたくさんありますが、一瞬一瞬がどれも大切な思い出になります。日本では経験できないことに思う存分挑戦し、自分を成長させてください。

## IV. 将来の目標

### ① 今後の進路、将来の目標・夢

民族国家であるカナダに留学したことで、もっと多くの人と関わり、様々な文化を学んで自分の知識を深めたいと思いました。将来も、英語を使って、グローバルに挑戦できる人になりたいと思います。そしていつか、ゲルフに戻ってホストマザーやゲルフにいる友達に再会したいです。

## V. 写真



語学学校の友達とテストが終わった帰りに食べ放題のお寿司屋さんに行った時の写真です。クラスは違いましたが同じレベルのみんながとても仲が良く楽しかったです。



ホストマザーとキッチンで撮った写真です。2人で過ごす時間がとても多く、色々な話をするのが楽しかったです。



ゲルフ大学のシンボルでもある Gryphon と到着して早々に写真を撮りました。



オーロラ鑑賞1日目の写真です。寒い中の鑑賞でしたが、オーロラを見られた時の感動は忘れられません。携帯ではオーロラは撮影できないので、カメラが必要です！



寮の友達とハロウィンパーティーをした時の写真です。それぞれが仮装して、お菓子や食べ物を持ち寄りました。この後、なぜかハロウィンなのに「千と千尋の神隠し」を見ました(笑) 皆ジブリが大好きで驚きました！

## K. Y. 英語英文学科・3 年次

### I. 留学レポート

#### ① 協定留学を目指した理由

1 回生の時に参加した TOEFL Camp をきっかけに、協定留学を考え始めました。TOEFL Camp に参加していた人たちは、すでに留学に対して計画や勉強をしていました。私は、それほど協定留学について調べていなかったし、なにより自分が協定留学に参加できると思っていませんでした。しかし、この Camp を通して色々な人に刺激をもらい、私も留学したいという気持ちを持ちました。さらに協定留学をすれば、大学で現地の学生と一緒に講義を受けられることが私にはとても魅力的でした。なぜなら、より英語力を高めることができ、現地学生の友人が作れると思ったからです。

#### ② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

私は IELTS の勉強を集中的にしました。私は初め、TOEFL Camp で頂いた問題集、友人からもらった問題集と図書館で借りた問題集の計 3 冊で勉強していました。基本的に使っていたその 3 冊に加えて、IELTS 公式ウェブサイトから送られてくる問題集にも取り組みました。しかし、私には問題集の量が多すぎて全ての問題集に対して中途半端になってしまいました。その結果、なかなか基準点の点数を取ることができませんでした。その後、問題集を 1 冊に絞り、完璧に理解するまで 1 冊だけで勉強しました。多くの問題をこなすことがないので、とても心配になりましたが、その勉強方法が自分に合い、結果として私が目指していた基準点を超える点数を取ることができました。この経験から、勉強をしっかりとやっているのになかなか思うような点数が取れないと感じている方は、様々な方法を試して自分に合った方法を見つけることが大切だと思います。

#### ③ 留学決定から出発までの準備期間

ビザの申請手続きは人によって時間がかかったりすると聞いていたので、早めに申し込みました。カナダの大学に行く友人と一緒にタイミングで申し込み、2 人とも 1 週間以内には届きました。しかし、万が一のために早めに申請をすることをお勧めします。留学までは、日本の宗教のことや世界の宗教のことを学べる講座を国際課が開催していたので、それに参加しました。

#### ④ 現地到着後

カナダの空港に到着後、語学学校のアクティビティなどを計画してくれる、現地の学生が待っていていました。そこから、何グループかに分かれて車に乗りゲルフに向かいました。

1 時間半ほど車で走り、大学の駐車場に集まって今後のスケジュールなどの簡単な説明が

されました。そこから、一人ひとりホームステイ先まで車で送ってくれました。語学学校の授業が始まるまでに授業についてのオリエンテーション、クラス分けテストや、ホストファミリーと一緒に参加する、ホームステイについてのオリエンテーションがありました。ホストファミリーとのオリエンテーションを開催してくれることで、ホストマザーから何でも相談してきてねと言ってきてくださったりしたので、ホストファミリーと話し合いをするいい機会だと思いました。

## ⑤ 語学研修期間

### ◆ 語学研修先の施設・環境について

授業以外の小さな疑問でも、何かあればすぐに相談に乗ってもらえる部屋がありました。最初のクラス分けテストの結果によって、語学学校のクラスが分けられるのですが、最初に割り当てられたクラスは私にとってとても難しかったです。3日間ほど考え、2か月間自分に合わないクラスで勉強するのは時間の無駄だと思い、語学学校のクラスを管理している人にメールを送りました。その次の日にその方の部屋に伺い、なぜ私とそのクラスに配属されたのかをテストのスコアをみながら丁寧に説明してくださいました。そして、私が1つ下のクラスに落とすことを決めた次の日にはそのクラスで勉強が始められるように手配をしてくださいました。とても迅速で丁寧な対応でとても嬉しかったことを覚えています。

### ◆ 授業内容、課題、試験

授業では、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなどをしました。他に、ニュース記事を集めて要約したものを1週間に1回したり、パソコンを使って発音練習をしたりしました。課題は先生によって量が違うのですが、リーディングとスピーキングは少なく、文法とライティングとリスニングは多かったです。

## ⑥ 正規科目履修期間

### ◆ 大学の施設・環境について

語学学校と正規の大学は同じキャンパスで勉強するので、図書館や隣の教室には現地の学生が勉強しているという環境でした。

### ◆ 履修科目

#### ・ Foodservice Management (HTM 1700)

お客様に対してのサービスの種類やレストランの種類といった、飲食業に関わる情報を学びました。現地の学生だけでなく、留学生に対しても優しい授業だと聞いたので履修しました。

#### ・ Intro to Women's Studies (WMST 1000)

フェミニズムのことだけでなく、障害者やトランスジェンダーの方についても学びました。

大講義に加えて、少人数で行うセミナーも週1回ありました。

・ **Human Development (FRHD 1010)**

人間が生まれたときから死ぬまでの心理状態や身体状態を学びました。講義に出向く形式ではなく、講義に出向かずパソコンだけで毎週課題を提出する形式でした。

◆ **授業、レポート、定期試験**

授業中に携帯を使って講義の録音をし、帰宅後その録音を聞きながら復習をしたりノート整理などをしたりしました。レポートは基本的に中間レポートと最終レポートの提出でした。現地の学生が文法や文章を添削してくれるサポートがあるので、レポート添削に活用できます。定期試験はクラスによって、選択式であったり論文形式であったりしました。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

ゲルフでのボランティアを募集しているウェブサイトを利用して、地域のお祭りの運営ボランティアをしました。さらに、週に1回アルコール・ドラッグ依存者のための治療センターでギフトショップのボランティアもしました。英語を使う機会が大いに増えただけでなく、自分と違ったバックグラウンドを持った方たちとも交流できました。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

住居は10か月間ホームステイをし続けました。1人部屋を与えてもらい、最初の4か月間は韓国の大学生も滞在していました。家にはトイレ・シャワーが1階と地下に1つずつ設置されていて、ホストマザーと韓国の学生の部屋は1階にあり、私の部屋は地下にあったので好きな時間に利用することができました。夕食はマザーが作ってくれて、一緒に食べていました。昼食は昨晚の夕食の残り物を持っていき、朝食は購入してくれているパンなどを食べました。大学まではバスで10分、徒歩で25分の距離だったので、天気が悪い日以外は徒歩で登校していました。

⑨ **長期休暇の過ごし方**

カナダ内だけでなく、アメリカにも旅行に行きました。ニューヨークやボストンならカナダから近いので、バスを利用して旅行しました。

⑩ **留学期間中の就職活動の取り組み**

11月にあったボストンキャリアフォーラムに参加しました。事前にエントリーをし、会場ですら面接をする機会を得られました。日本でセミナーなどに参加できず、焦りは感じていたのですが、面接という経験ができたことは自分にとって非常に大きいものになりました。

**II. 留学の感想**

① **留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること**

日本でしたことがなかったことをたくさん経験できたことがいい思い出です。例えば、大学の友達とキャンプ場でテントを張って旅行をしたり、そり滑りやスケートといったアクティビティから、サンクスギビングやクリスマスといった行事も楽しみました。私は、ホストファミリーや友人から誘われればできる限り参加しようと心掛けていました。

## ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学が始まり半年間過ぎた頃に、なかなか英語力が伸びないことに悩みました。すでに半年を過ぎているにも関わらず、自分で英語力が向上したと実感することができず、とても焦りつらい時期でした。その後、なんとか壁を乗り越えようとボランティアに参加したり、ホストファミリーや現地の学生と話す機会を作ることに励みました。

## ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

友達の知り合いが私の知り合いでない場合でも、友達になるように積極的に場を設けてくれます。夏のキャンプに一緒に行った友人7人中、4人はその場で初めて会いました。一緒に招待されたカナダ人の友人も、初めてその場で会う子がいて、友達になっていました。1日だけ過ごす状況ではなく旅行だったので、「友達の友達は既に友達」という考えに驚きました。

## Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

留学生に対して、とても手厚い対応でした。特に語学学校の期間は、カナダを満喫できるようなアクティビティを毎週のように計画してくれたり、大学で取る授業の相談にもたくさんもってもらいました。

### ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

持ち運べるパソコンは必要でした。パソコンを使って授業を受けたり、図書館で勉強する時に使いました。現地の生理用品の質が悪いことはなかったのですが、日本製の物を大量に持っていく必要はなかったと思いました。滑り止めがついたブーツを持っていくと便利でした。

### ③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

大学の授業を受けボランティアに週1で参加した9月以降、英語力はとても伸びたと実感しています。お年寄りが話すゆっくりとした英語だけでなく、学生が話すスラングが入った早い英語を聞き取れるようになり、留学し始めた頃にはできなかった英語で学生と電話で話すことが可能になりました。

### ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学先では、何にでも挑戦して欲しいです。私は初め、新しい環境に参加したり挑戦するこ

とを不安に思ったり悩んだりしました。しかし、カナダでした経験は帰国後の話のタネになると友人に言われて以降、何にでも挑戦することに恐れなくなりました。その結果、とても満足のいく留学経験を得ることができました。

#### **IV. 将来の目標**

##### **① 今後の進路、将来の目標・夢**

カナダで出会った様々な国の友人の母国を訪れたり、カナダで再び会うことが楽しみです。

## V. 写真



家を出る日に、ホストマザーと犬のキンボと撮った写真です。毎日話す時間を作ってくれたり、週末は一緒にお出掛けに連れて行ってくれました。



友達のホストファミリーの家で、韓国の友人を交えてピザパーティーをした写真。その後、3回ほどピザパーティーを開催しました。



語学学校が計画してくれたアクティビティに行った時の写真。近くのメープルシロップフェスティバルに、日本人とカンボジアの友人と参加しました。



ハロウィンパーティーをしたときの写真。ハロウィンは友人たちとトロントに行き、仮装を楽しみました。



アグリークリスマスパーティーの写真。みんなでダサイセーターを着て、クリスマスパーティーをしました。